

## 卒業生の言葉(中学部)

桜の木の下に小さな赤い芽が付き、春の準備を始める季節となりました。

本日は、私たち卒業生のために卒業式を挙行して下さりありがとうございます

季節は、春、夏、秋、冬、また春と何度も繰り返しますが、そのたびにできる思い出は増えていき、私たちの心も成長していきました。今から私たちが「キズナ硬め 友情マシマシ ケンカ抜き 思い出特盛で。」というスローガンを掲げ、過ごしてきた3年間で皆様にお伝えします。

入学式、お互いのことを知らない状態から始まり、ドキドキして、みんなと一緒に喋ることができなかつたです。初めての授業がとても楽しかったです。小学校では、先生の話がすごく早くて、集中することもできなかつた。先生に質問をしたかつたけど、周りの人が私の事を見るのが嫌だつた。だからずっと悲しかつた。しかし、聾学校に来て、先生がたが私の事を守ってくれて嬉しかつたです。クラスの人ともすぐに友だちになって、お話ししてくれたり、一緒に手話の勉強をしたりしました。嬉しくて少し泣きそうになったことを覚えています。青春のように豊かな日々が続いていきました。

入学して3ヶ月。まだごちない私たちはともに1泊2日を過ごしました。初日の晩御飯の焼きそばはクラスで力を合わせて作りました。まばらな野菜の形が気にならないくらい美味しかつたです。夜には旅館で本音を語り合いました。意見がぶつかり合い、喧嘩をしたことも今となってはいい思い出です。一泊移住を通して私たちは、お互いの知らない部分を知ることができ、こうして私たちの中学生活は始まりました。

職場体験では、上町みどり保育園に行きました。子どもたちがとても元気で、かわいくて癒されました。おままごとと一緒に遊んだことが特に印象に残っています。しかし、お昼寝の時間には元気に遊びまわっていた子どもたちを一瞬で寝かしつけていた先生たちをみて、保育園の先生のおすごさを知り、同時に仕事の大変さがよくわかりました。この経験をこれからに生かしていきます。

文化祭では、1年生の時、「chu1 祭り」で、ゲームや人体模型を作りました。初めての作業も多かつたのですが、少しずつみんなと仲良くなつて、楽しかつたです。

2年生の時は、「悪魔と天使」というテーマで「スタジオアカシ」を開きました。毎日の準備が楽しかつたです。

3年生の劇「サボさんとチキンと僕らの2泊3日」。1からみんなと力をあわせ、劇をつくりあげた感動は今でも覚えています。お客さんに楽しんでもらえてうれしかつたです。

修学旅行では、3年生全員で東京に行きました。新幹線やホテルで話したり遊んだりしたことがとても楽しく、一番の思い出です。また、ディズニーランドで遊んだことも楽しかつたです。日本で唯一のサインングストア「スターボックス」に行ったときは、手話で注文が通じたことが嬉しかつたです。また3年生みんなで行きたいです。

1年生の時、卓球部に入り、わからないことやどうやってもうまくいかないことがあつた時、先輩方が優しく教えてくれました。それから私たちは「卓球の楽しさ」を知りました。

2年生になり、近畿地区ろう学校卓球大会がやってきました。自分の持てる力を全て試合にぶつ

けましたが、良い結果を出すことができませんでした。

「優勝」この2文字を目指して1年間ひたすら練習に励みました。

そしてついに、今年度「優勝」を勝ち取り、感謝と嬉しさでいっぱいでした。先輩方、後輩たちと練習を積み重ねてきてとても良かったです。

同好会では、1年生のときは先輩たちがやさしく、みんなでカードゲームをしました。2年生になって、1年生が2人入ってきて、先輩になりました。カードゲームのルールを教えてあげることができました。後輩と過ごす時間が、私にとってとても楽しい時間でした。

中学1年生の4月から、少しずつ少しずつさまざまな行事やたわいもない日々を重ねる中で一つになっていったこの学年。

その中ですれ違ったり、うまくいかなかったりしたこともありました。しかし、すぐ隣には温かく導いてくださった先生方や家族、ともに笑い、切磋琢磨した先輩方や後輩たちの姿がいつもありました。私たちは、この3年間で強くなった自分を信じて、一歩前に踏み出します。そして、それぞれの道で、より成長した私たちの姿を見せていきます。

最後になりましたが、私たちをここまで支えていただいたみなさん、また中央聴覚支援学校に明るい未来が待っていますよう心から願っています。

令和8年3月13日  
大阪府立中央聴覚支援学校  
中学部卒業生一同